

とねまち プレイバック

昭和51年
6月発行
広報とね

広報とね（6月号）

沼崎さんの水田で 投げ苗植えの実験



▲沼崎さんの水田で行われた投げ苗植えの実験。活
着は非常によいとのことですが、秋の収穫高が注
目の的となっております。

代掻きや田植えの重労働か
ら解放されたいと願うのは、
農業の経験者ならだれしも同
じことですが、機械を使わな
いで、あぜから苗を投げるだ
けで田植えはOKといういわ
ゆる水稲の投げ苗植えの実験
が、5月7日加納新田の沼崎
嘉文さん所有の約5アールの
水田で行われました。

この方法は、まずカブマキ
ポット（育苗箱と同じよう
箱の中がタテ・ヨコ16mm、深
さ25mmに区切られていてマス
のようになっている）の中に
土を入れ、種モミを2〜3粒
まきつけます。
このようにしますと、苗の
発育とともに根が発達して土
を巻き込み、投げるときに根

の部分が自然に下になり、水
田に植えつけられるようにな
るのです。

田植えは、できるだけ多く
の苗をわしづかみにして空中
に投げ上げます。このとき約
60%ぐらいの苗は適当に投げ
残りの約40%の苗をまばらな
ところをめがけて投げるよう
にします。

現在は、まだ一般農家には
普及しておりませんが、試験
場等で研究が続けられており
一名空中田植えとも呼ばれる
このような方法もあるという
ことをお知らせいたします。

赤十字からの お願い!!

町内の皆さん、いつも赤十
字に深いご理解をいただき感
謝に堪えません。

皆さんの暖かいご理解によ
り、年々社費目標額の達成も
みごとな成果をあげることが
でき、おかげをもちまして、
赤十字の人道的任務が遂行さ
れつつありますことを心から
感謝申し上げます。

ことしもまた、五月一日か
ら日本赤十字社員増強運動が
行われましたが、本年度は戸
毎に一人は三〇〇円社員にな
っていただき、よりいっそう

とねまちプレイバック

昭和51年6月に発行された
「広報とね」に、「水田で投げ
苗植えの実験」という記事が
掲載されていきました。

記事の中には、「代掻きや
田植えの重労働から開放され
たいと願うのは、農業経験者
ならだれしも同じことですが、
機械を使わないで、あぜから
苗を投げるだけで田植えはOK
といういわゆる水稲の投げ苗
植えの実験が行われました」と
記載があり、苗を田んぼに
投げるという大胆な方法の裏
には、農作業の負担を少しで
も減らそうという、当時の人々
工夫が感じられます。

投げるだけでちゃんと苗を
植えられるのかという疑問が
湧きますが、「苗の発育ととも
に根が発達して土を巻き込み、
投げる時に根の部分が自然と
下になり、水田に植え付けら
れるようになる」と記載があ
ります。

当時、まだ機械化が進んでい
なかった時代に生まれた「投げ
苗植え」。今ではその姿を見る
ことはなくなりましたが、当時
の町民の知恵と努力が感じられ
ます。

人口と世帯（令和7年4月1日現在）

総人口	15,331人	（－101）
男 性	7,579人	（－44）
女 性	7,752人	（－57）
世帯数	7,617世帯	（－61）

（ ）内は前月比

【5月の納税等】 ※納期限および口座振替日は6月2日です。

軽自動車税：全期